

「子どもも教師も楽しめる授業づくりをめざして」

加古川市立加古川養護学校

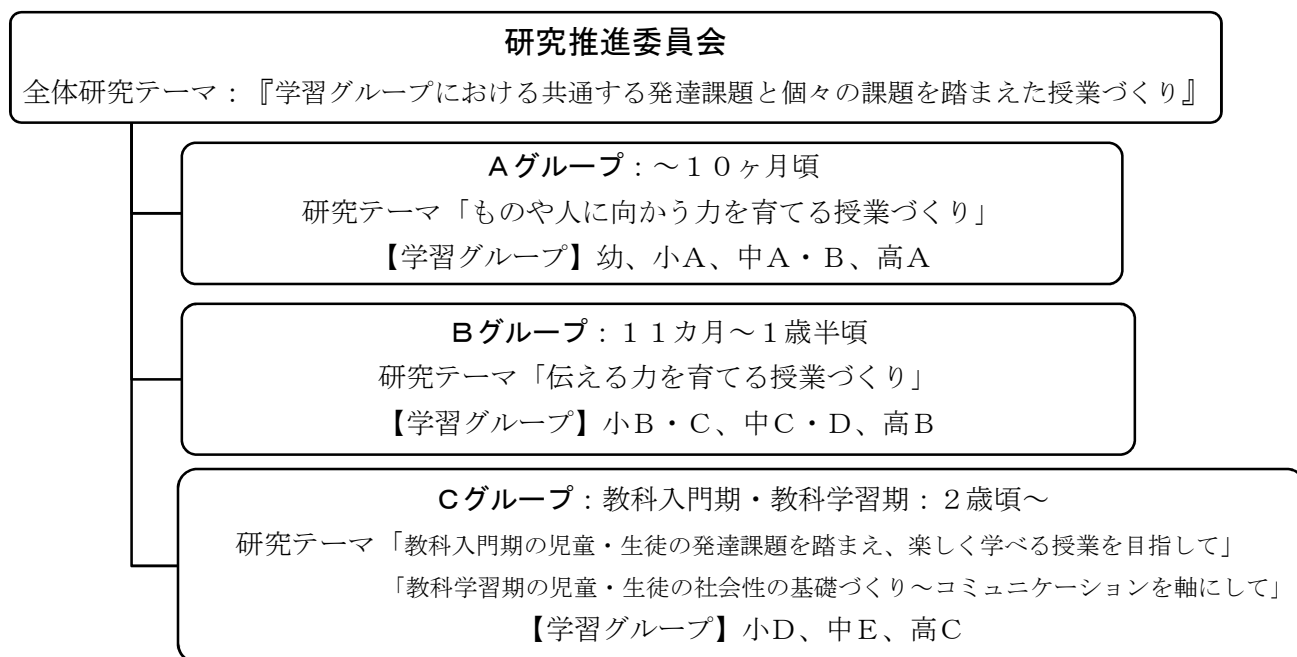
主幹教諭 平田 真二

1 取り組みの内容・方法

本校では、近年、校内研究として、共通する発達課題に重点を置きながら、子どもの個々の障がいや特性に応じた授業づくりに取り組んできた。ここでは、平成29年度までの校内研究の取組について報告したい。

(1) 校内研究の概要

学習グループの発達段階ごとに、学部（幼・小・中・高）の枠を外した縦割りで3つの研究グループを編成し、全体研究テーマに沿った各グループでの研究テーマを設定した。（図1）



<図1 研究組織図>

各研究グループとも、研究を深めるために、次の4点を授業づくりの共通の視点として意識しながら取り組んだ。

- ①共通する発達課題をベースにした授業づくり
- ②個々の課題を踏まえた授業づくり
- ③同一教材・複数課題の授業づくり
- ④プロセスを大切にした授業づくり

そして、上記のような研究組織・共通の視点のもと、次のように研究を進めていった。

- ①月1回のグループ研究日を設定し、研究授業の事前・事後研究を中心に行う。

- ②各研究グループで1回ずつ全校研究授業を行う。
- ③どの学習グループもグループ研究授業を行う。(適宜)
- ④2月に校外に向けて公開授業を実施する。
- ⑤3月にグループ研究発表会を実施し、各グループにおける研究成果を共有するとともに、本年度の研究の総括と来年度の方法について検討する。

(2) 実践例

Aグループでは、グループ研究テーマを「ものや人に向かう力を育てる授業づくり」と設定し、まだ感覚運動的段階にあり、自分の世界に留まりがちであるAグループの子どもたちが、ものや人(外界)へ気持ちを向けたくなるようにするためにはどうすればよいかを、授業研究を通して検証していった。実際の1年間のAグループの取り組みを以下に示す。(表1)

	グループ研での授業研究等
1 学期	Aグループの子どもたちの実態や課題の把握 ⇒ 研究テーマの設定 全校授業研究 小A「風船ランドでルック&タッチ」
2 学期	グループ授業研究 中A「電話でもしもし」 グループ授業研究 高A「おむすびころりん」
3 学期	グループ授業研究 中B「好きな音探し」 Aグループの研究のまとめ ⇒ グループ研究発表会で発表

<表1 Aグループの年間取り組み>

(3) Aグループ研究授業「風船ランドでルック&タッチ」(小A)

①学習グループに共通する実態・課題

小Aの児童5名(うち1名は訪問教育)は、臥位で過ごすことが多く、外界を捉えたり、外界に働きかけたりすることが弱くなりがちである。体幹の力を高めながら、身体を立てた姿勢を多くとり、手で物に触れて外界を探索していくことが課題である。さらに、5名中3名が視覚に弱さがあるため、視覚以外の多様な感覚に訴えていくことが必要である。そして、快の体験を積み重ねる中で、楽しいと感じる気持ちややりたい要求を、表情、身振り、発声で伝えることも課題となる。

②教材の工夫

ふわふわと揺れ動く風船の様子を目で見て捉えたり、顔や手に当たることで感触を感じたりして、それに手で触って働きかけようとするのをねらいとした。蚊帳の中に吊るしたり置いたりした風船が、サーキュレーターの風で揺れ動いたり、舞い上がったり、空中で静止したりするようにし、さらに、ブラックライトで風船が光るようにすることで、思わず触れたいくなるような環境設定を工夫した。また、風船の光やBGMを使うことで、待っている子どもも友だちが活動し



ている様子を見たり感じたりする学習活動の場として設定した。

③子どもの反応

物に関心を向けようとしなかった子どもが、光る風船を見て思わず手を伸ばして触ろうとした。また、視覚の弱い子どもが、顔に当たる風船を手で触れることから始まり、回を重ねるごとに、指でつかもうとしたり、両手でつかんで抱えようとしたりするなど、一人一人風船へのかかわり方の変化が見られて、楽しい授業となった。また、友だちが楽しそうに活動している様子を見たり感じたりして、声や身ぶりで自分もしたいという気持ちを表現する姿も多く見られた。

2 取組の成果

(1) 授業づくりの共通する視点

Aグループで1年間の4つの研究授業の比較検討を通して、「ものや人に向かう力を育てる」授業づくりのために共通する7つの視点が浮かび上がった。

①実態把握

- ・子どもの実態把握から一人一人の課題をはっきりさせ、それを授業の中での具体的な指導目標につなげていく。

②スモールステップとなる目標

- ・授業を重ねる中で子どもが目標達成を目指せるように、スモールステップで目標設定をしていく。

③次の課題設定

- ・日々の授業における子どもの変容について教師集団で話し合うことを通して、次の課題を設定したり、支援について工夫したりしていく。

④内面を動かす教材

- ・心揺さぶられる教材に出会ったとき、子どもたちは思わず出た自らの動きで外界を変化させたという体験をする。そうした成功体験を生み出すような、子どもの内面を動かす教材を絶えず吟味していく。

⑤目標に近づくための支援

- ・成功体験を積みやすくしている身体的な制約をカバーするために、介助の仕方や補助具の活用などを含めた支援の手立てを、一人一人の実態に応じてきめ細かく行う。

⑥子どもの表出・表現の捉え方

- ・表出・表現が読み取りにくい子どもの発信を見逃さずに丁寧に捉えていき、適切に意味づけていく。

⑦集団の力

- ・信頼できる教師との関わりが基礎になるが、子ども同士の関わりから得られることも大きい。子ども同士がお互いに意識しながら、連帯感や一体感が生じる環境づくりを大切にする。

(2) 授業実践を共有財産に

授業実践を共有財産にすることを目指してデータベース化に取り組んだ。(図2)現時点で、600以上の授業実践が登録されている。どのような教材を、どのよう

な発達段階の子どもたちに、どのように授業の中で触れ合わせるかを系統化し、全教師が共有化することで、次の授業づくりに活かせるようにしている。

No.	教材(単元)名	授業種別	中心学習領域	関連学習領域	学部	グループ	対象の子どもの階級	実施年度	実施学期	指導案	その他資料	DVD	写真	数
2001	ふとん たいすき	テーマ学習	自分・交流	からだ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2012	3学期	○	人形劇シナリオ			
2002	ふとん せきとり	テーマ学習	自分・交流	からだ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2012	3学期	○	読み聞かせの仕方、絵本画像			
2003	汽車に乗って温泉に行く	テーマ学習	自分・交流	からだ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2013	1学期	○				
2004	くっついた	テーマ学習	自分・交流	からだ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2013	1学期	○	絵本「おててなっちゃん」のパワーポイント	○		
2005	みんなで楽しく(かき氷)	テーマ学習	せいかつ	ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2012	1学期	○				
2006	お月見ごっこ	テーマ学習	せいかつ	からだ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2012	2学期	○				
2007	ほわほわ ばら	テーマ学習	せいかつ	ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2013	1学期	○	絵本「ほわほわばら」パワーポイント			
2008	海しな	テーマ学習	せいかつ	自分・交流、からだ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2013	1学期	○				
2009	せきとり しりとり	テーマ学習	からだ	自分・交流、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2013	2学期	○	絵本「せきとりしりとり」パワーポイント			
2010	もりのおふろ	テーマ学習	からだ	せいかつ、ことば	小学部	みかん	5～10ヶ月齢	2012	2学期	○	台詞の絵本			

< 図 2 授業データベース >

3 課題及び今後の取組の方向

このように、共通する発達課題に重点を置きながら、子どもの個々の障がいや特性に応じた授業づくりに取り組んできたが、今後はより研究を深めながら、各発達段階における子どもの発達課題を整理し、それを参考に誰でもが授業における子ども個々の学習課題を設定できるような「発達課題を学習課題につなげるものさし」づくりにも取り組んでいきたいと考えている。

また、全国的な課題でもあるが、本校においても、ここ数年間でベテラン教師の退職が進み、経験の浅い教師が占める割合が高くなってきている。授業データベースを充実させ、有効に活用できるようにするとともに、ベテラン教師が経験の浅い教師に授業づくりのノウハウを継承できるようなシステムづくりが、学校としての急務であると考えている。

私たち教師は、日々の授業実践を通して子どもたちとつながっており、「教師が授業づくりを楽しめること」＝「子どもが授業を楽しめること」であると考えている。子どもが授業を楽しむ姿が、教師の次の授業づくりへの意欲につながっていく。このことは、まさに学校の活性化につながるであろうし、今後も日々の授業づくりを基盤においた学校の活性化を推進していきたいと考えている。